

出会いは世界を広げていく

交流会を通して

第15回

最終回

未来への一步

土肥いつき DOHI ITSUKI

京都の公立高校教員。24時間一人バレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

前号(5月号)にはトランスジェンダー生徒交流会(以下、交流会)の「アイスブレイキング」の話を書きました。十分にアイスブレイキングの時間をとったあと、自己紹介の時間がはじまります。

自己紹介はかつては強制参加でした。しかし現在は「半強制」にしています。ある小学生の参加者による「ここでは性別のことを誰も言わないからいい」という言葉が、そのきっかけです。トランスジェンダーの子どもたちは、ことあるごとに性別を問われ、性別に翻弄される毎日を過ごしています。そんな日々から、せめて年間5回だけでも自由になってほしいと思いました。と同時に、いずれ自己紹介に参加してくれる日がくるだろうとも思っています。なぜなら、小学生の時に自己紹介から逃げ続けてきた参加者が、高校生になった今、自己紹介を仕切ってくれているからです。

ある日の例会でトイレの話題が出た時に、ある参加者が「多目的トイレとか許可されなくても使えるし!」と発言しました。それを聞いたみんなは「間違いない!」と爆笑しました。ただ、このひと言を、自分ひとりの部屋でつぶやくのか、みんなの爆笑の中で語るのか、そこには大きな違いがあります。別の日の例会では、小学校5年生の参加者が「来年のために中学校のグループに入りたい」と言ってきました。4月から自分が名のりしたい名前前で学校に通いたいのでアドバイスがほしいとのことでした。まわりの中学生は、自分の経験を通したさまざまなアドバイスをしました。ただ、その子の担任が来ていたので、みんなに「担任にもアドバイスしてあげて」と投げかけました。みんなが出した結論は「先生が最初に呼べばいい」でした。担任が「それだけでいいの?」と聞き返すと、みんな「それでいいよ」、「理由は言わなくてもいい。『〇〇は〇〇だから』だけでいいよ」と答えました。年度はじめの例会では、自認する性別の制服の着用を実現した参加者のファッションショーがはじまるがあります。そんな先輩の姿を見た後輩たちが後に続きます。

冬には合宿をしています。合宿では自己紹介も含

め、特にプログラムはありません。とにかく長い時間を一緒に過ごす経験をしてほしいと思っているからです。ある参加者が「合宿をやっている場所を離れて、近所の公園に行って話す時が、やっぱり一番大事なことを話せる」と語ってくれました。すべてを私たちの管理下に置かず、管理下から少しはずれた場所があることの重要性を教えてもらった気がしました。

2015年から夏にキャンプをはじめました。きっかけは「海水浴を楽しんでほしい」と思ったからです。小学生の参加者と保護者の感想を掲載します。

- 今回は、すてきな体験をさせていただき、ありがとうございます。今回の体験で、最も心に残ったことは、海で泳げたことです。理由は、今までは、こ衣室などのけんで、海にもプールにも行けなかったけれど、この体験で海を泳げたので、とてもうれしかったです。(小5のトランスガール)
- この度は合宿に参加させていただき、ありがとうございました。初めて参加したのですが、交流会で海という事で、今まで着させてあげられなかった女児用の水着を一緒に買いに行くというところから、合宿の楽しみが始まっていました。(中略) 普段は周囲や父親の目があるため、女子の格好で遊べる事がないのでかわいそうな思いをさせていますが、交流会では着たい服を着て、本来の自分らしさを出せるようで、楽しそうな我が子の顔が見られて、親としてうれしかったです。(保護者)

好きな水着で泳ぎたいという、ただそれだけのことができないのはいったいなぜだろうと思います。現在トランスジェンダーの子どもたちは支援や配慮の対象とされています。しかし、公園で楽しそうに走りまわる子どもたちの姿を見るたびに「この子どもたちは困難を抱える存在ではない」ことを痛感します。

この連載は、今号で最後です。連載では伝えきれなかったみんなの思いを乗せたメッセージ動画が以下のアドレスにあります。ご覧いただければ、幸いです。

<http://blog.ituki-d.net/new-resource/message-gid23/>